



FAEGER

# 農地の脱炭素推進を通じた農業界への還元

農業由来カーボンクレジットデベロッパー

株式会社フェイガー

## 会社概要

|       |   |
|-------|---|
| 社名    | 株式会社フェイガー<br>(英語表記 Faeger Co. Ltd.)                       |
| 本社所在地 | 〒107-0062<br>東京都港区南青山2-2-15 WIN青山531                      |
| 電話番号  | +81 (03) 6824 -0769                                       |
| 創立    | 2022年7月   |
| 資本金   | 100,000,000 円 (2024年7月現在)                                 |
| 主要株主  | 経営陣 インキュベイトファンド<br>東京海上ホールディングス<br>農林中金キャピタル<br>環境エネルギー投資 |
| 従業員数  | 50 名 (業務委託含む)   |
| 事業内容  | 農業由来クレジットの生成と販売   |

世界をもっとサステナブルに。  
社会にもっとフェアネスを。

私たちは、

農業由来カーボンのクレジットの  
生成ディベロッパーです

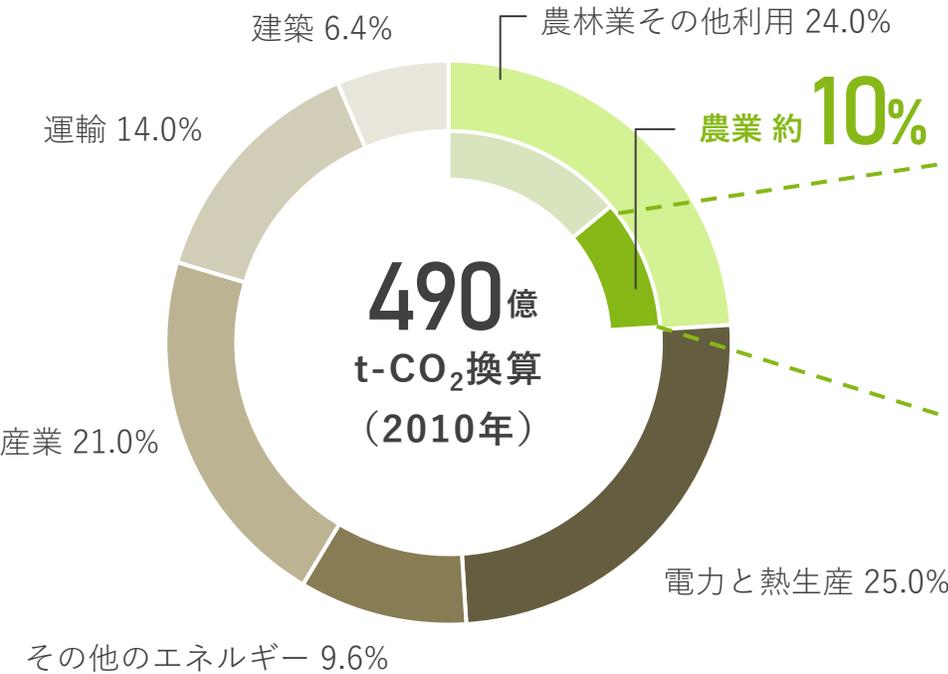
農家向け脱炭素施策の収益化と、  
カーボンのクレジットの  
流通サポートを行っています。

# 私たちのFocus①：日本の農地の脱炭素化

## 世界全体の温室効果ガス排出における農業分野の割合とそのカテゴリー別排出量

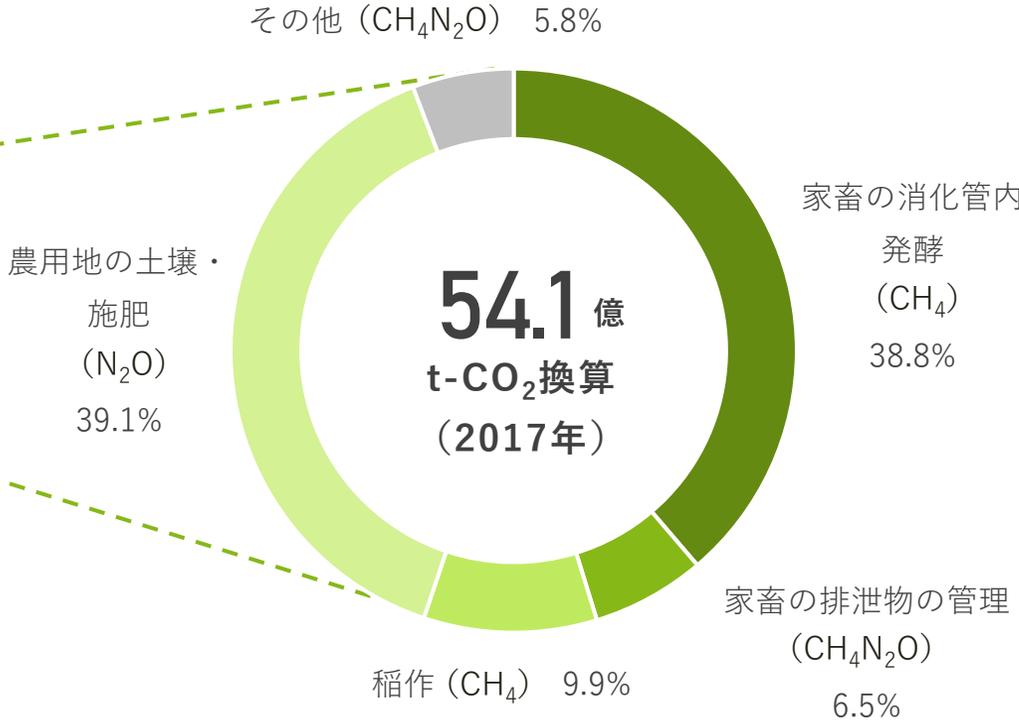
### 全分野

燃料の燃焼など含む、2019年データ



### 農業分野

燃料の燃焼のCO<sub>2</sub>排出量を除く



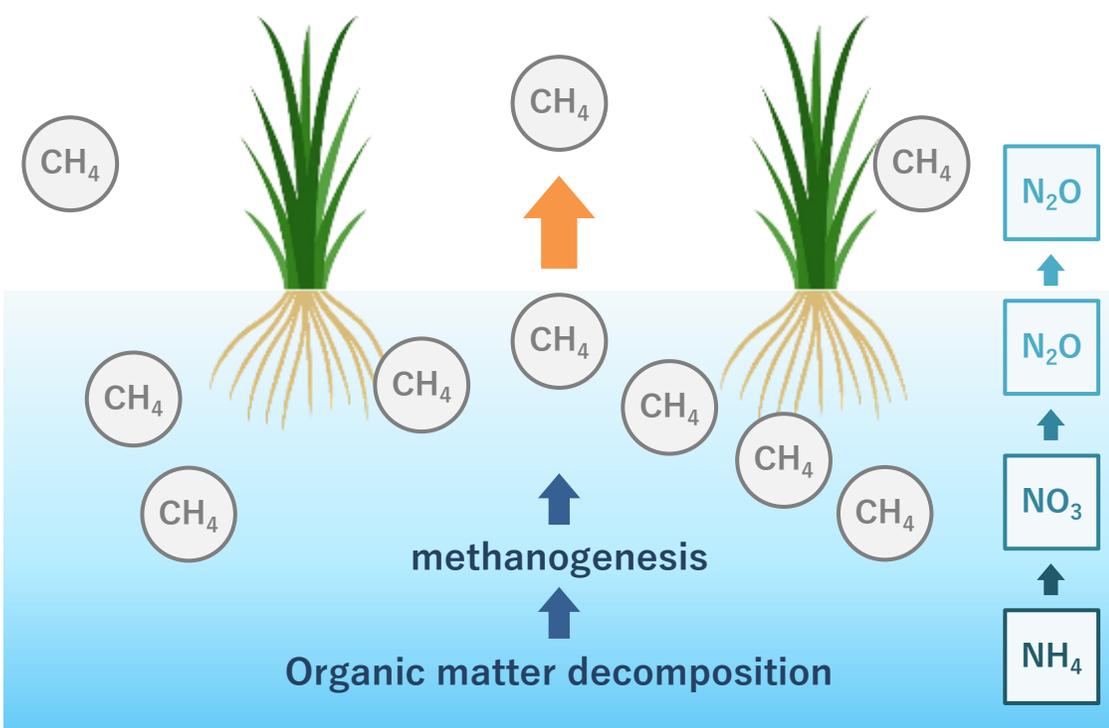
出典: 農研機構「農業由来温室効果ガス排出削減技術の開発」P2グラフ (IPCC第5次評価報告書 第3作業部会報告書、FAOSTAT統計データより集計)

# 稲作の脱炭素化：水田中干し期間の延長とは

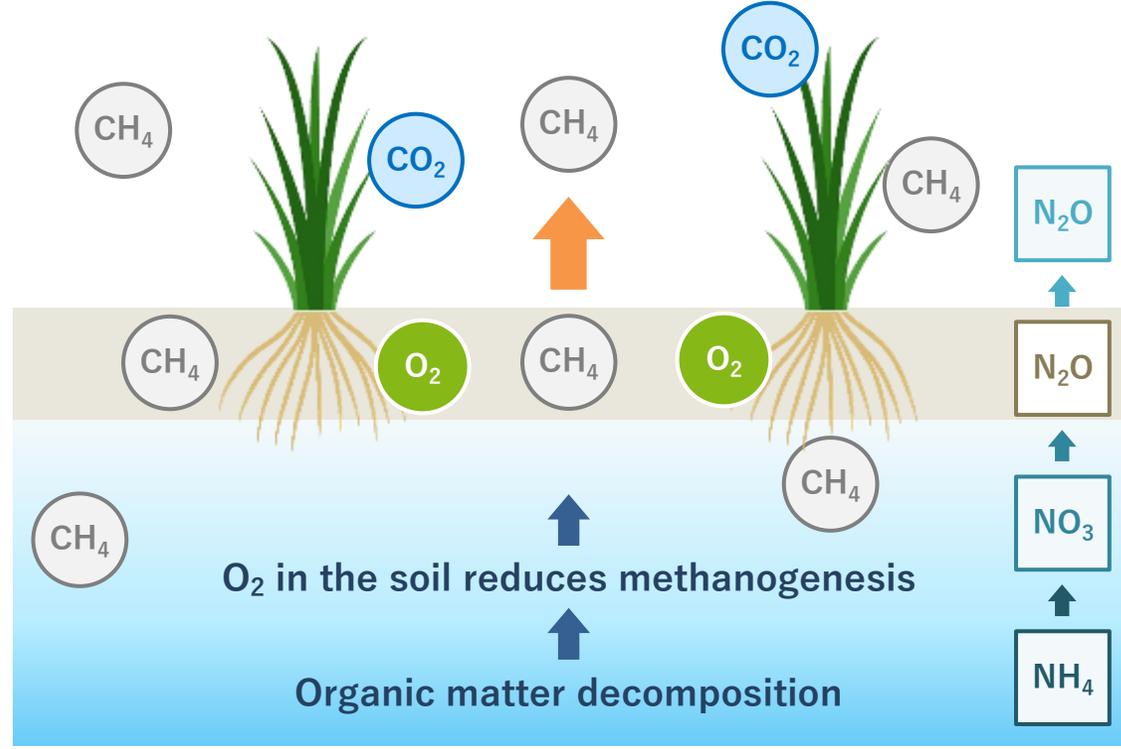
水田中干し期間の延長とは水のマネジメントにより水田から排出されるメタンを抑制する手法

## 水田中干しによるメタン生成が削減されるメカニズム

- 嫌気性細菌の作用により、土壌の有機物が分解される過程でメタンの生成が進む



- 水田中干し期間の延長により酸素を土壌に晒すことにより嫌気性細菌の作用を抑制、メタンの発生を削減

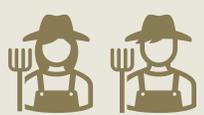


# 私たちのビジネスモデル：農業由来カーボンプレジットの生成と販売

農家様と協力してカーボンプレジットを生成

企業様のカーボンプレジット調達をサポート

協力農家



1 農家と共同して脱炭素農業を推進



2 取組の成果をクレジット化  
J-Credit, ボランタリークレジット  
<VCS, Gold Standard等>



3 収益を還元



FAEGER



4 当社の農業由来クレジットの販売



5 クレジットの活用（オフセット）

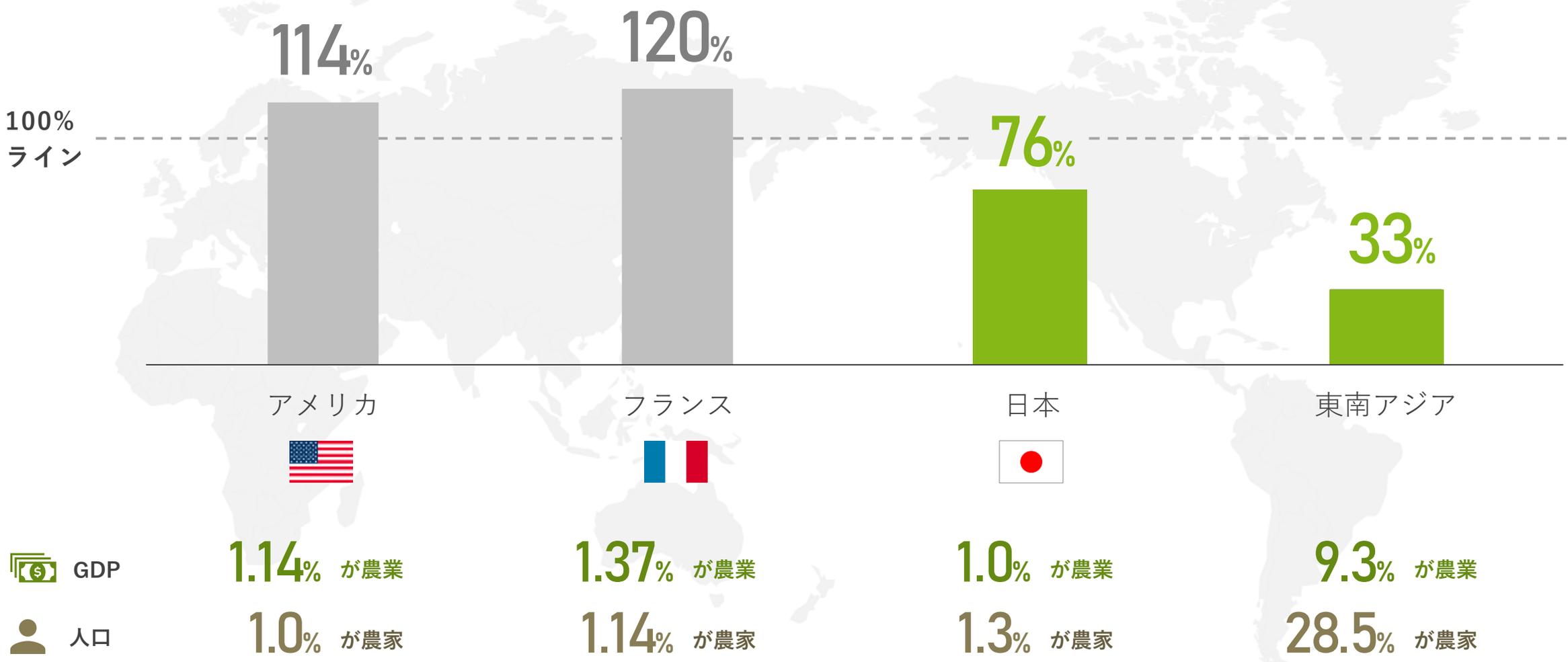


企業様



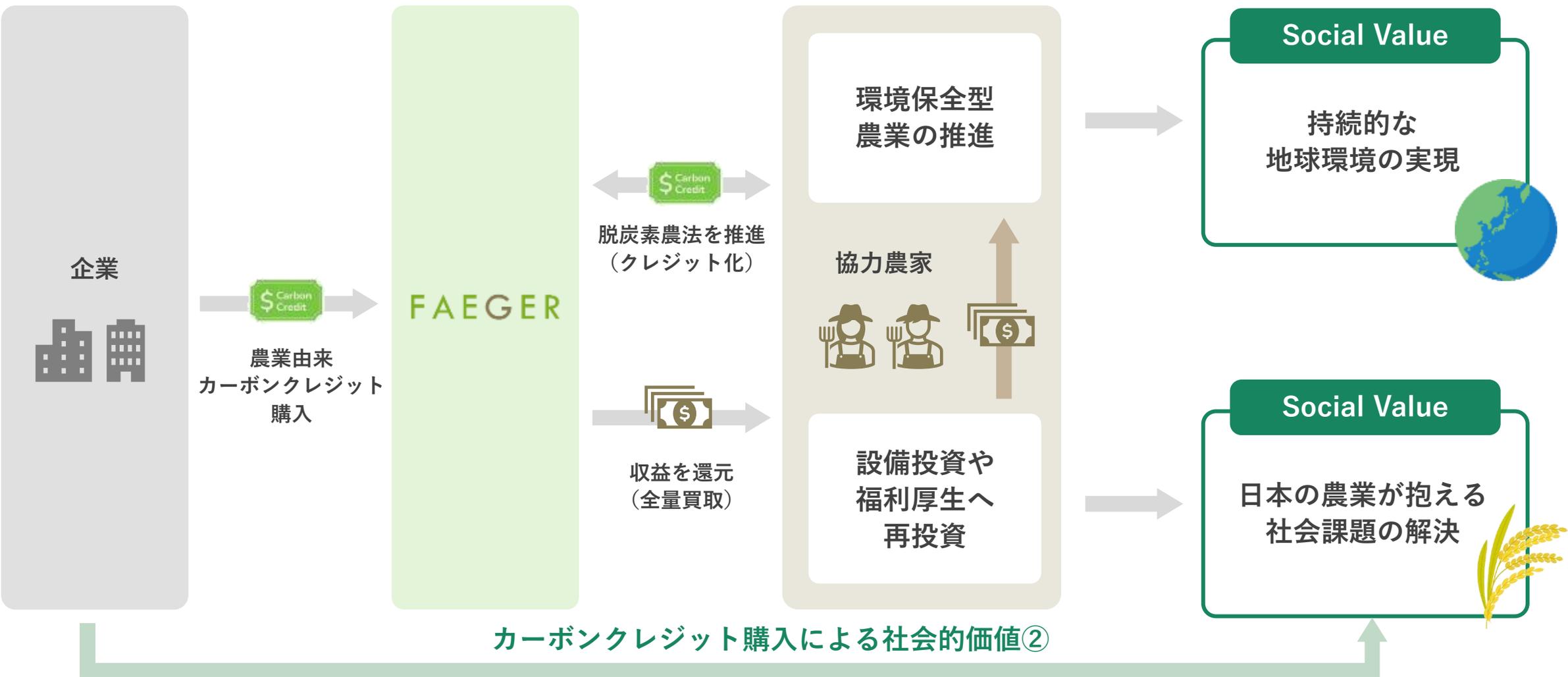
# 私たちのFocus②：日本の農業の収益性改善

他産業に対する農家収入割合を他国と比較すると日本の農業の収益性は低い状態である



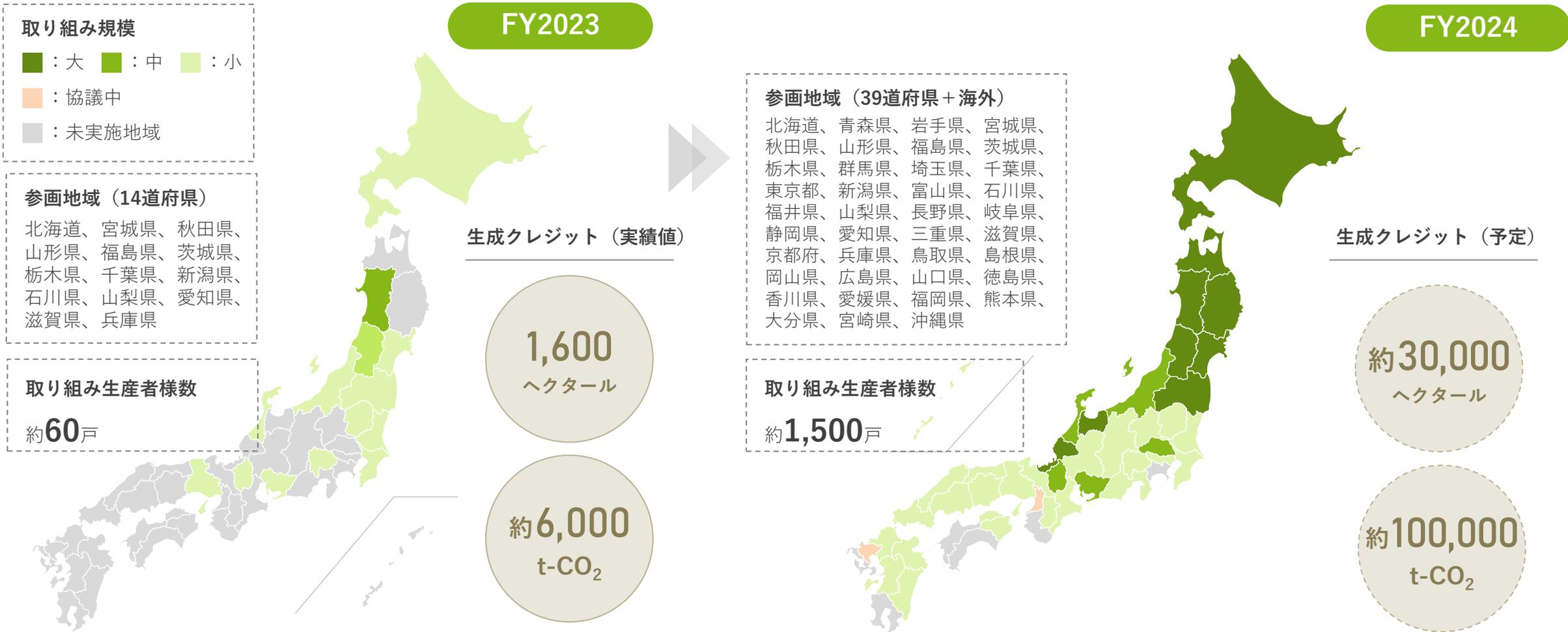
# 社会的インパクトを付加したカーボンプレジット

## カーボンプレジット購入による社会的価値①



## カーボンプレジット購入による社会的価値②

# 農地の脱炭素化と収益化を全国で実施 現在約2万人の生産者がスタンバイ

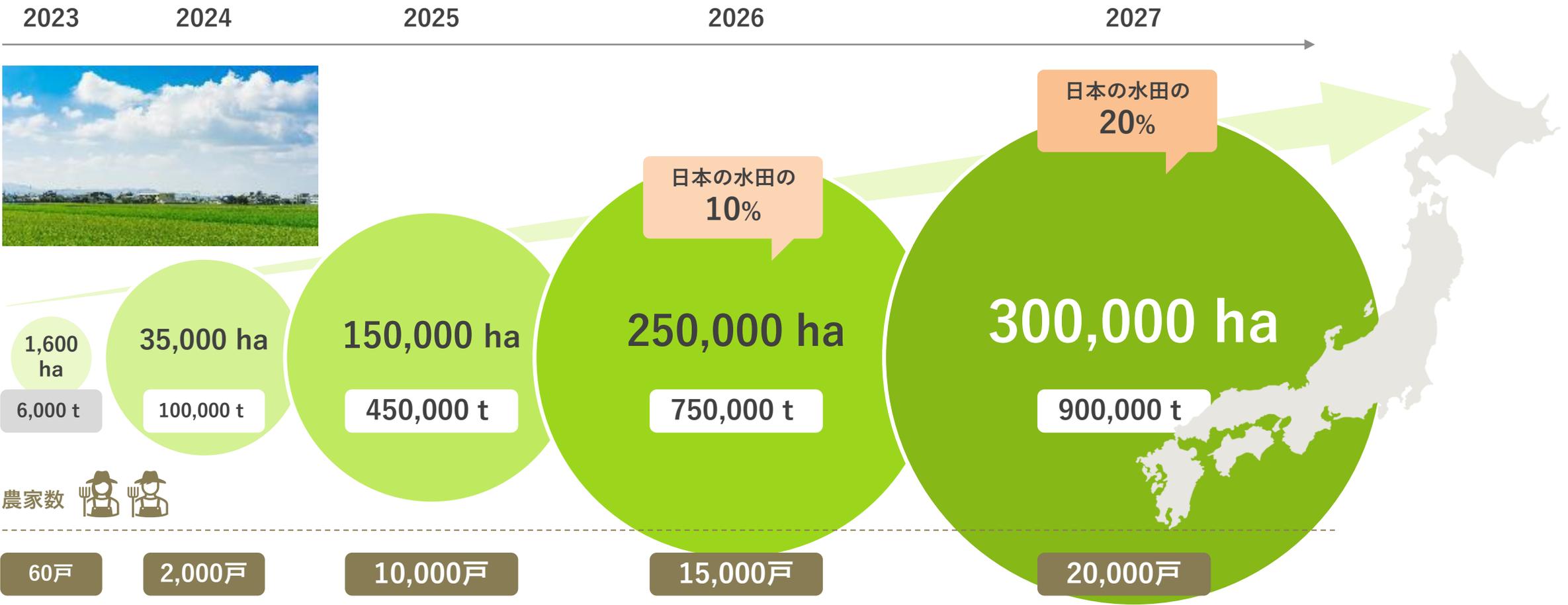


# クレジット生成に関わるパートナー（2024年4月現在）

脱炭素×農業の収益性改善の取り組みに賛同し、共に生産者の支援を行っています



# J-クレジットの生成プレイヤーとして2027年までに水田の20%を脱炭素化



## 地域生産者との連携

取り組んで頂いている生産者様が持つ想いや取り組みの様子を購入企業やその先のエンドユーザーに届けることができるのも弊社のクレジットの特徴です



“地域の豊かな自然環境を、  
後世に受け継ぎ、農業の明るい未来を実現したい”

山梨県北杜市 農業法人 株式会社 こびっと

有名な山々に囲まれ、そこから出てくる伏流水を源流にした山梨県北杜市で、地域循環型農業など環境負荷を抑える農業を営む農業法人 株式会社こびっと。フェイガーの取り組み初年度である2023年に「水稻栽培による中干し期間の延長プロジェクト」に協力。

三井 勲 様 代表取締役

企業の評価が、農業者に形として戻ってくる **VALUE**  
J-クレジットは僕の思い描いていた理想の形。

地域循環型農業を続けてきたなかで、地域の方から「こびっとさんのおかげで地域を守ることができている」と声をかけていただくこともあってうれしく感じていました。一方で、環境負荷を抑えるさまざまな取り組みを評価してもらえぬ場が実は少ないと感じていました。補助金をいただいても、財源が税金であることを思うと農業者としては葛藤があり、モチベーションが上がらなかったのも事実です。フェイガーを通してJ-クレジットの仕組みを知り、環境負荷を抑える取り組みを企業に評価していただくことが財源になり、農業者に形として戻ってくる。僕が本当に理想とする形だと思いました。それが、真っ先に取り組みをさせていただきたいなと思ったきっかけです。

農業をやっていくことが評価される **FUTURE**  
明るい未来が待っているのを感じます。

この豊かな自然の中で農業ができていることは恵まれています。一方で中山間地でのお米づくりは平地でのお米づくりとは効率がまったく違う。見えない苦労はたくさんある。だけど、ありのままの姿を伝えることで、そのひとくちが美味しくなるのかなと思っています。そのために、この地域の風景だったり自然環境、田んぼの豊かな生態系を守りたい。J-クレジットの普及とともに、田舎で農業をやっていくことを評価してくれる人がたくさん増えていくということだと思いますし、農業に可能性と明るい未来を感じています。それが今後も続けていく・広げていく勇気になっています。

農業界には課題もあるが、 **Background**  
豊かな自然環境を守り「おいしい」と言ってもらいたい。

会社を立ち上げてから約15年、この豊かな自然の中で地域循環型農業など環境負荷を抑える取り組みを続けてきました。離農される方も多し、高齢化も進んでいる。農業作業・共同作業を軸にした地域のコミュニティも失われつつあるなかで、最初は苦勞することもありました。でも、だからこそ、後世の農業者に何を受け継いでいくべきか、この地域のよさや特徴をいかに消費者に伝えていくかを常々考えています。着飾るのではなく、この地域の風景やどれほど豊かな自然環境で作られているのか、ありのままの姿を伝えていきたいし、そうした取り組みを通じて「おいしい」と言ってもらうこと、ファンになってもらうことをモチベーション・使命に感じています。



# ゼロカーボンシティを目指す各自治体との連携

取り組んで頂いている生産者様や自治体を持つ想いや取り組みの様子を購入企業やその先のエンドユーザーに届けることができるのも弊社のクレジットの特徴です



地方と都市の格差を是正したく議員から最年少町長に時流に則した改革でより良い町の未来を作りたい

新潟県津南町 町長 桑原悠様

自然環境豊かな土地である津南生まれ、25歳で町議会議員初当選、31歳で当時日本の“最年少町長”として第6代津南町長に就任。現在内閣府男女共同参画計画実行・監視専門委員も務める。結婚出産を経験し、“子供が大人になった時に良い形でこの町を受け継いでもらいたい”、それが町長になった時の思い。町立病院の経営再建を含む様々な改革を実施。「ゼロカーボンの町、つなん」として2050年までにCO2排出量実質ゼロを目指し、町民・事業者・行政が一体となって「脱炭素」に向けての明確な行動指針を2022年に制定。

“これからの時代を創る意識”に強く共感し  
フェイガーとの包括連携協定締結へ

VALUE

フェイガーとは最初に代表の石崎と面談。独自のビジネスモデルはもちろんのこと、“農業、社会課題、環境問題といった課題に挑みこれからの時代を創っていくんだ”という強い意識を持った若いリーダーが積極的に活動していること、そこに熱量のあるスタッフが集まってきていることに共感を覚えたことが包括連携協定のきっかけ。  
「今年から町で実証実験的にカーボンクレジットの取り組みを進めてもらう中で、生産者のみなさんが“意義あることに取り組んでいる”というプライドを持っていただいているのを感じます。周りの自治体、JAさんからの問い合わせも非常に多くいただいております。今後はクレジットの地産地消モデルやPRも積極的にご一緒したいと考えています。」



“家族経営の農家”から  
“ビジネスとしての農業”へ

FUTURE

地方の町は閉鎖的なイメージだが、津南町はここ10年で意識が変わってきた。少子高齢化がますます進んで、変わらないといけなとみんなが気づき始め、新しい風を入れようとしている。「津南町は様々な企業・大学とも協定を締結しており、それを通して外交するかのよう強みを把握して周りと連携していくことが大事。その先の人材の育成につながっていくと良いと思っています。」  
農業も、今までは家族経営が前提だった。お父さんが主体でお母さんが手伝い、息子が継ぐというのが当たり前だったが、今はスマート化が進んでいるので女性にも参入しやすい環境になっており実際に女性が農業経営に携わる法人も出てきている。  
「未来に繋がる農業がしたい」といったリアルな現場の声が叶う環境を整えていく。



もともと水力発電の町  
住民の環境への満足度・意識が高い

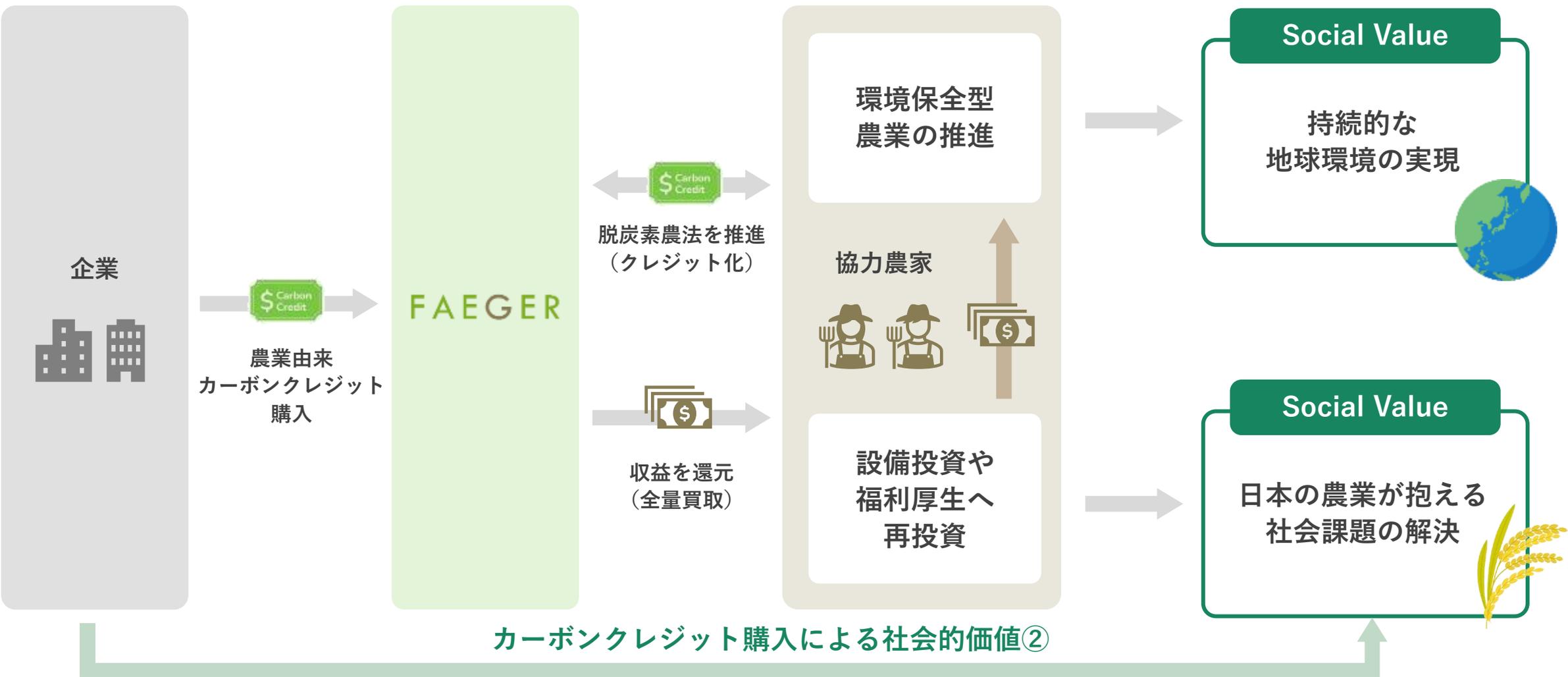
Background

日本有数の豪雪地帯である津南町は多くの湧水やため池があり、国土交通省が認定する「水の郷百選」に指定されている。そういった大地の恵みを生かし、お米だけではなく、アスパラやとうもろこし、花といった農産物の栽培が盛ん。農業従事者の割合も高い。世の中でカーボンニュートラルが必要と言われていの中で、気候変動による農作物の影響は生産者はどうに気づいており、自分ごとの課題として捉えている。環境に配慮した農産物は市場において農産物自体が評価されるようになるはずで、町としてもそういった付加価値の創出を進めていく。



# 社会的インパクトを付加したカーボンクレジット

## カーボンクレジット購入による社会的価値①



## カーボンクレジット購入による社会的価値②

# カーボンプレジットの質を高める活動①

## 生成関係者との丁寧な合意形成と申請までの細やかな伴走

農作物への影響可能性や報酬の形態等、生産者が安心して取り組む環境を作り合意形成することでクレジットの**透明性**を担保し購入企業が安心して社会的インパクトをPRできる品質に

### ▶ 透明性の高い説明と合意形成

プロジェクト実施  
地域の選定  
(スクリーニング)

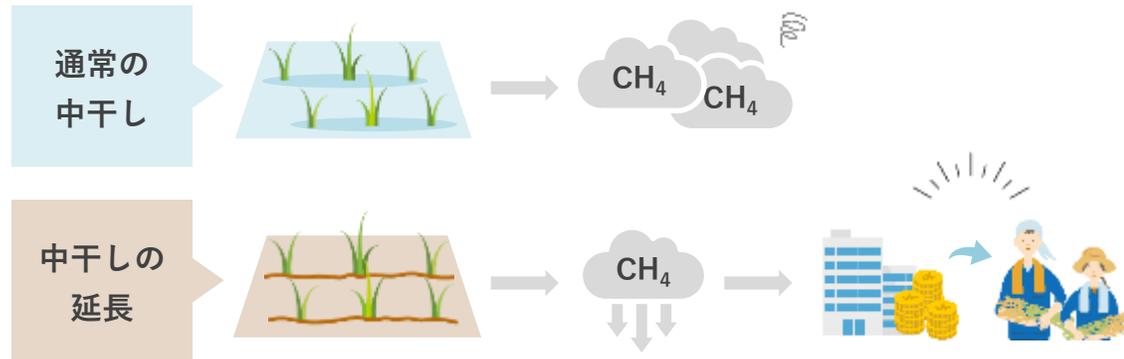
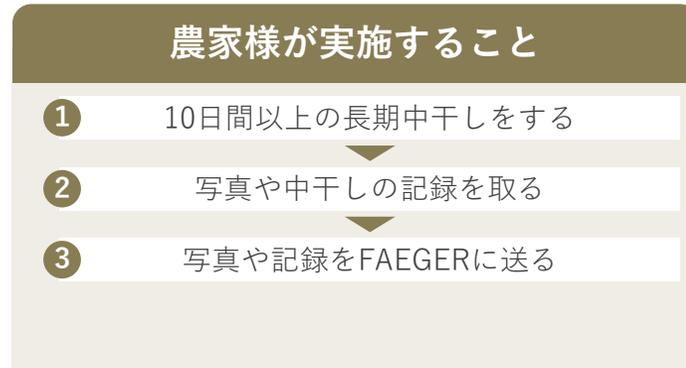
- 現地の栽培指導委員の方と一緒に収量低下のリスクもふまえてプロジェクト実施地域を選定している

プロジェクト実施による地域への悪影響、潜在的な悪影響の回避

- 農家様や地域JA様、自治体様への合同もしくは個別説明会の実施
- 農家様、JA様・自治体様からプロジェクトへの意見や要望をいただきやすい管理体制
  - 方法はLINEや電話など



### ▶ 農家様とフェイガーが行っていること



高度な専門性  
農学・環境学博士を含む専門家

# カーボンプレジットの質を高める活動② J-クレジット以上の独自品質基準を設けモニタリング

クレジットの生成過程における独自の厳しいモニタリングを設置  
 取り組み生産者・購入企業が批判にさらされないためのエビデンスを保有。過剰発行等のリスクを回避

モニタリング  
部分

**FAEGER 追加部分**

---

**中干の写真（GPSと時間の情報付き）のエビデンス**

- 来年度より自社システムによって農家さん情報も一緒になる

---

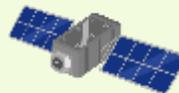
**管理者（フェイガー）＋協業者再度での現地撮影＋写真**

- GPS、時間、農家情報も盛り込まれた情報
- ランダムピックアップで95%信頼性の現地調査  
※ Verraの現地視察基準と同等

---

**衛星画像による記録**

写真でみえないところや現地視察しない農地




**農業由来J-クレジット申請基準  
（最低ライン）**

- 過去2年分の中干の記録
  - 農業日誌で確認

---

- 中干延長をした後の記録
  - 農業日誌で確認

---

- 推移測定 of 記録→データ

# FAEGER

---

株式会社フェイガー

